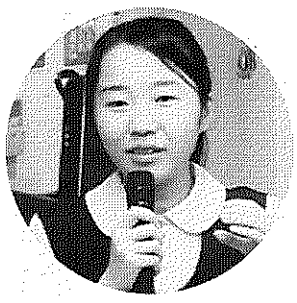
高校生が行う 平和の活動から学ぶ

高校生平和大使 取組報告&学習会を開催

反戦平和・核廃絶の意識を高めるため、9月18日（水）SKホールにて、高校生平和大使と高校生1万人署名活動を行っているお二人の高校生をお招きして学習会を行いました。冒頭の中里中央執行委員長のあいさつでは「若い人たちが戦争や原爆の悲惨さを訴えているのに、大人が何もしなくていいのか」という取組の必要性を訴え、講演に向けて意思統一しました。

本間さんからは署名活動についての報告がありました。『ビリョクだけどムリョクじゃない』というフレーズに心を打たれて活動に参加し始め、普段は新御茶ノ水駅前での活動がメインとなっていますが、メーデー中央大会やさようなら原発集会などでのブースによる活動もあるそうです。最初はなかなかしゃべれなかった本間さんも、活動を進めていく中で署名してくれる方と話すことができるようになり、「同年代の人やもっと小さな子どもたちに、核兵器廃絶をはじめとする平和活動に対する意識や関心を高められる存在になっていけたら」と自身の思いを語られていました。

櫻井さんからは8月に広島・長崎を訪れて行った取組の報告がありました。広島では子ども向けイベントのスタッフや原水禁世界大会閉会総会への参加、長崎では一万人署名の集約や全国の高校生との交流などを行っています。取組を通じて櫻井さんの心の中で2つの変化があったようです。1つは核抑止論への考え方で、「残酷な兵器の存在を肯定するようなことは私にはできない」という思いを強く持つようになったこと。2つ目は平和活動に対する取組み方で、高校生が活動する意義を再認識し、「私たちは誰かを本気にさせることができる。核の廃絶は可能だ、やってみよう、やらなくちゃいけない。大人にそして若者にそう思ってもらうために今後の活動に邁進していきたい。」という決意を述べられていました。



第22代高校生平和大使の一員であります小泉さんからは、国連への派遣を含めた活動の中で得た経験が報告されました。この活動の目的は①核兵器廃絶と世界平和を願う長崎・広島・日本の市民の声を世界に届けること②国連に高校生1万人署名を届けること③核兵器廃絶に向けての国際協力・国際連帯の基盤を作ること④日本の若者を代表して核兵器の廃絶と平和な世界の実現を訴えること。署名は215、547筆となっています。（累計2、001、235筆）

訪問先にはユニ・グローバル・ユニオンもあり、小泉さんはそこでのスピーチの最中に涙を流してしまったそうです。「当時の惨劇を語っているうちに今まで聞いてきたたくさんの被爆者の方の言葉、その当時の場面が頭に浮かび、感情が高ぶり、声が震えて泣いてしまいました。無我夢中でスピーチを終え、『大失敗した』と考え、呆然としながら客席を眺めたら、聞いている方の中にも涙を流してくださっている方がいました。練習通りのスピーチはできなかったけど、私の、そして今まで聞いてきた被爆者の方の平和に対する思いは伝わったのではないかと思いました。」と話されていました。

軍縮会議日本政府代表部を訪問した際には高見澤軍縮大使より日本政府としての核兵器に対する見解などが説明され、「国際情勢は非常に緊迫している。その中で日本の安全保障については、アメリカの核の傘に入っていることは非常に重要である。核の傘から出れば日本の軍備費もかかることになるし、それが日本国民を苦しませることになる。」という考え方が主張されました。そして核兵器禁止条約に対しては非常に否定的な意見を持っていながらも、「日本が核兵器を保有することは100％無く、これからも核兵器廃絶をゴールに取組んでいく。」という話があったそうです。小泉さんは「プロセスは大きく異なりますが、私たちの取組を通じて心に少しずつ訴えていき、最終的に核兵器廃絶という同じ目標を目指しているということを念頭に置いて、これからも活動を続けていきたいと思いました。」と決意を新たにされたようです。

国連軍縮部では平和大使全員がスピーチを行い、署名を提出しています。軍縮局長は高校生平和大使の活動を高く評価しており、質問には真摯に答えていたそうで、軍縮局長の「互いに相手を認め合い、家族のように大切にできる平和な世界。誰にも脅されず、怯えることのない平和な世界。その世界に核兵器はいらない。」という言葉が強く印象に残ったようです。

最後に小泉さんは、「皆様一人ひとりにもお力があります。署名してくださることはもちろん、今回私達の話を聞いてくださって核兵器について知ろうと思ってくださっていること、また大人の方々はダイベストメント運動といった核兵器を製造している企業に資金を回さないようにする運動もできると思います。一人一人の市民が持つ力が集結したときに、初めて世界の権力者の方々は耳を傾けてくださると思っています。これからも今回学んだことを活かし、精一杯活動を続けてまいります。」と会場の参加者に対しての訴えと決意を述べていました。

『ビリョクだけどムリョクじゃない』というスローガンの下で活動している高校生たちですが、その思いや行動からは決してビリョクなどではないと感じました。そして、これほどまでに核廃絶と世界平和を願っている高校生を目の前にし、参加者からは感動と賛辞の拍手が送られました。我々は労働組合として『平和なくして労働なし』の観点から改めて反戦・反核などの取組を強化することの重要性、また大人として高校生と共に世界平和に向けてもっと訴えていかなければならないことを再確認した学習会となりました。今後もこのような学習会を取組み、東京清掃全体の運動の前進につなげていきましょう！

（萩原　崇氏）

せいそう労働者

東京清掃労働組合
千代田区飯田橋3-9-3
TEL（3237）9995
1部20円

編集責任
企画・総務局
田口　康乗

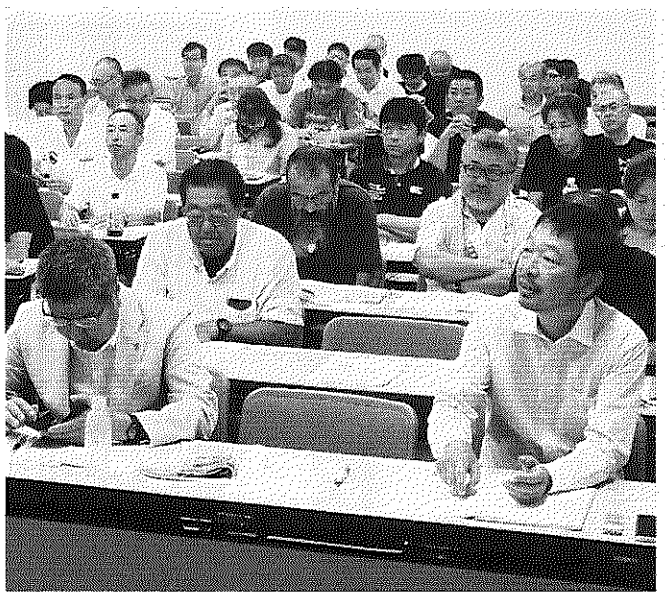
わが組合の綱領

一、われわれは健全なる自主的組織を確立し、生活諸条件を確保し、社会的地位の向上を期す。
二、われわれは労働の社会的意義を顕揚し、都区政の徹底的民主化を期す。
三、われわれは労働者階級の解放と民主主義日本を建設し、世界平和に貢献せんことを期す。

自治労東京都本部
現業評議会の取組

現業セミナー

9月17日（土）、SKホールにて現業セミナーが開催され、東京清掃からは17名が参加しました。主催者あいさつ・来賓あいさつを受けた後、『災害時の現業職員の役割と住民ニーズ』というテーマで栃木県地方自治研究センターの森下常務理事、『災害時における現業職の役割』というテーマで八王子市議会の森議員より講演がありました。2019都本部現業統一闘争中間総括を全体で確認し、毛利都本部副中央執行委員長の団結がんばろうで終了しました。


災害時に活躍できる現業職の確立を！

清掃部会 学習交流集会

9月28日（土）には都本部現業評議会清掃部会の学習交流集会が開催され、東京清掃から24名が参加しました。各あいさつの後、単組報告として八王子市職の笹川書記長（清掃部会長）より『新たな技能労務職「生活環境職」採用の取り組み』、東京清掃から西村副中央執行委員長より『新規採用獲得の取り組みと清掃工場の課題について』、それぞれのテーマで報告を受けました。質疑応答も活発に行われ、新規採用交渉の強化に向けて認識を深めました。

単組報告を行ったお二人（左は西村副委員長）

現業統一闘争 総決起集会

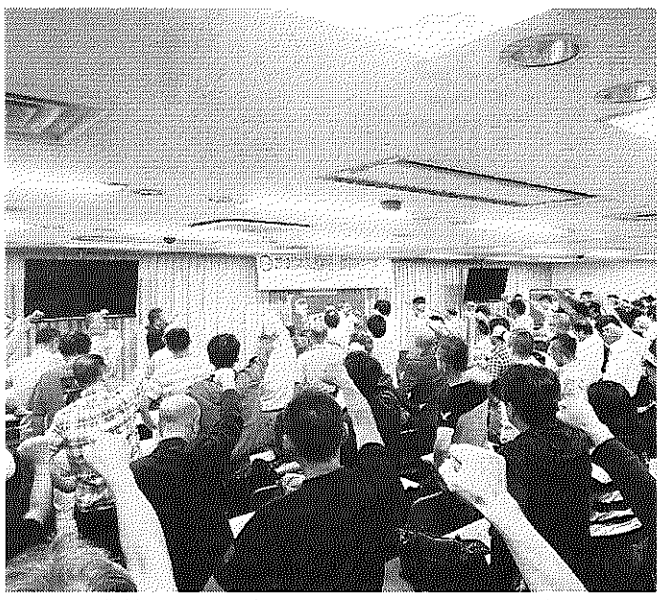
新規採用獲得に向けた第2次交渉ゾーンの意思統一の場として、現業統一闘争総決起集会が10月1日(火)中野サンプラザにおいて開催されました。東京清掃からは28名が参加しました。（全体で21単組134名）

吉野闘争委員会副委員長（都本部現評議長）、座光寺都本部中央執行委員長より主催者あいさつを受け、自治労組織内候補として参議院議員選挙に当選された岸まきこ参議院議員より「引き続き皆さんと一緒に闘っていきますので、共に頑張りましょう！」と激励の来賓あいさつを受けました。

講演として自治労本部の小迫現業局長より「2019現業統一闘争のさらなる推進に向けて」について話があり、自治体現場力の回復を目指した闘いの必要性を全体で共有しました。その後、闘争方針提起、決意表明、参加議員より連帯のあいさつ、各単組へ檄布贈呈を行い、最後に毛利闘争委員会副委員長の団結がんばろうで終了しました。

現業評議会では新規採用を最大目標とし、あらゆる角度から現業の必要性を考えるべく学習会や集会を開催しています。とりわけ自然災害については、被災自治体に対して機動力のある現業の我々が行政支援を行おうとしても、現場力に余裕がないことからなかなか派遣できず、被災地の復興が進まない状況等も聞いています。今こそ我々の必要性を当局に認めさせ、積極的な被災地支援と自らの自治体が被災した際の復旧・復興を迅速に行うため、現業評議会に結集して取組を強化していきましょう！

（萩原　崇氏）


現業統一闘争に向けて力強い団結がんばろう！

東京清掃への檄布贈呈

全労協第31回 定期全国大会開催

9月29・30日（日・月）に全労協第31回定期全国大会が大田区産業プラザpioで開催され、東京清掃から代議員として5名が参加しました。経過報告及び方針討議については、全て賛成の立場で18名からの発言・報告があり、満場一致で可決されました。今回の役員選考で、中里委員長は副議長を退任し、江森副委員長が新たに副議長に就任しました。常任幹事は引き続き田口書記次長です。

（森田　裕二）

渡邊議長の主催者代表あいさつ

全労協結成30周年 記念レセプション開催

9月29日（日）の夕方には全労協結成30周年記念レセプションが開催されました。東京清掃本部からは7名が参加し、地域で活動する東京清掃の組合員も多数参加しました。全体では150名を超える参加があり、盛況な催しとなりました。記念品として「全労協30年の歩み」が配られました。

（森田　裕二）

挨拶をする渡邊議長

第五地連BBQ大会を開催

19賃金確定闘争勝利に向け一致団結

9月29日（日）、家族も含めて総勢50名の参加でバーベキュー大会を開催しました。会場は空気の澄んだ山の中にある清水公園です。毎年、メインシェフを務めるのは足立支部の山本委員長、必然的に足立支部が買い出しと調理の中心部隊を担っていただいています。

良質でしかも圧倒的な量の肉はもちろん、もつ煮込み、ムール貝の白ワイン蒸し、さらには締めのオムライスまで、山本シェフによる料理の数々は参加者の舌をとろけさせました。よく食べ、よく飲み、よく笑い、全員が大満足で3時間の宴は幕を下ろしました。ここで養った英気を糧に、全力で19賃金確定闘争を闘います。（第五地連事務局長　斉藤幸司）

和気あいあいなバーベキュー風景